

願成寺報

平成二十四年十二月一日

〒四四〇・〇八二二 豊橋市東新町二十八番地

☎ 〇五三二・五二・九六〇一

報恩講のご案内

左記により勤修いたします
万障お繰り合わせて お誘い合わせてお参り下さい

〇餅つき会

お彼岸よりも沢山の種類のお餅をつきます。
沢山の人手が必要です。是非、お手伝い下さい。
賑やかが第一です。声の応援だけでもお願い致します。



十二月 五日(水) 午後一時 餅つき会

八日(土) 午後一時半 法要・法話 大河戸 悟道師

午後四時 法要・法話 住職

九日(日) 午前十時 法要・法話 戸田 信行師

午前十二時 お斎(昼食)

午後一時半 法要・法話 戸田 信行師

注意事項

八日(土) は、午後から開始です。開始時間にご注意下さい。
粗飯など、お腹が空かない準備を計画中です。

九日(日) は、例年通りです。

「紅葉」

今年には紅葉の当たり年だそうですね。楓や銀杏や様々な種類の、数えきれない木の葉たちが、秋の山を鮮やかに、錦に彩りました。

『錦』と『阿弥陀』は似た言葉だと思えます。それぞれの木の葉は錦を知りません。けれど無自覚なまま… 自覚のないまま、山を錦として荘厳しています。

一一ノハナノナカヨリハ 三十六百千億ノ

佛身モヒカリモヒトシクテ 相好金山ノゴトクナリ

《讚阿弥陀佛偈和讚・親鸞聖人》

一枚の木の葉として、自身の色彩の良し悪しを問うのを止めることはできません。自己評価の点数に関わらず、そのままの色彩で山の錦を構成し、錦の輝きがその葉の上に映っているのです。少なくとも、それを錦と愛でる眼があると信頼できれば、安心して色付き、散っていくことができるでしょう。

うらを見せ おもてを見せて 散るもみじ

《はちすの露・良寛》

良寛禅師は、天保二年正月に七十五歳の生涯を閉じました。貞心尼著『はちすの露』は、四〇歳年上の禅師との清らかなロマンスを伝え、この句を収録しています。師匠の死を前にして別れたくないと悲しむ貞心に、禅師が答えた句のようです。

私も貴女に格好の悪い所は見せたくはない。しかし病身で力なく、看護してもらっているこの身では、恥ずかしい姿も見せざる負えない。事の善悪、格好の良し悪し、表裏は私の執着。表を有難い、裏は懐かしいと観てくれる貴女が残るのだから、私は安心して散っていきけるのだ。

執着を超えた所で、悲しみもまた錦を彩っているのです。



● 正信偈ノート⑥・弥陀章Ⅲ

書き直しを恐れず、今、思い浮かぶところを書き留める

本願名号正定業 至心信楽願為因

黄色の勤行本の

成等覚証大涅槃 必至滅度願成就

十八ページから

本願の名号は正定の業なり。至心信楽の願を因とす。

等覚を成り、大涅槃を証することは、必至滅度の願成就なり。

〔浄土真宗本願寺派・注釈版聖典より〕

・光明と名号

何時でも・何処でも・誰でも、と私に活動の自由を与えるのが光明であれば、今・其処・貴方、と私を内側から呼び覚ますのが南无阿弥陀仏の名号です。

・願いの力

私が育ち、活動する根本には願いがあります。始めは親の願いに育てられ、やがて自分の願いを願うようになります。けれど私の作り出した願いは必ずしも叶いません。そんな時、願いを修正して何とか過ごしております。修正し切れない場面が続くと、生活が不活発になったり、鬱になったり、往き止まったりします。そんな状態を自分の縄で自分を縛る、自縄自縛と云いますが、その苦しみをどのように解いたら良いのでしょうか？

もし私の内に、修正の必要のない盤石の願いが建っていたなら、自縄自縛は自ずと解けるのだと思います。自分の作り出した願いが盤石でないとすれば、仏の願いを心の内に賜るより他にありません。その願いに領けば、私の願いも捨てずして、往き止まりなく、活き活きと歩む道が開かれるでしょう。

・仏の願い

法蔵菩薩の四十八願に真実五願があり、その三つを記します。

第十七願（諸仏称名の願）【教・行】

設い我仏を得んに、十方世界の無量の諸仏、悉く咨嗟して我が名を称せずば、正覚を取らじ。

第十八願（至心信楽の願・王本願）【信】

設い我仏を得んに、十方の衆生、至心に信楽して我が国に生まれんと欲うて乃至十念せん。若し生まれずば、正覚を取らじ。唯五逆と正法を誹謗せんことを除かん。

第十一願（必至滅度の願）【証】

設い我仏を得んに、国中の天人、定聚にも住し、必ず滅度に至らずば、正覚を取らじ。

これらが成就していると領けば、きっと私の上に、次のような願いが宿ると思います。

私を困む諸仏の説法に励まされ、我執ある身を問い直し、十方の衆生と共に、念仏申し合いながら、仏になると定まった大道を、ご縁慶び歩みたい。

・私の濟い

親鸞聖人は、この名号のいわれを学び驚き、慶び領き、自縄自縛の苦しみを解き、阿弥陀仏の撰取の働きに殉ずる道を歩まれました。その道は、本願名号（南无阿弥陀仏）を主人からの呼び声として聞き、我がはからいを問い直し念仏申す道でした。その姿と教えが弟子たちを動かし、八百年の時を超えて私達の上に届いています。

自縄自縛を心に入れて念仏申せば、濟いは既に手の中にあると思います。そのことを沢山の先達や同行が証しています。

* 戴きに間違いや飛躍があるかも知れませんが、お許し下さい

「ピノキオ」

時計職人のゼペット爺さんは独りで暮らしておりました。

寂しいので樫の木でお人形を作り、ピノキオと名付けました。

その夜に星の魔法がかかり、意思をもって動き話すようになりました。

お爺さんは大変喜びました。そして他の子のように学校に行かせます。

学校に行く「お前は人間じゃない」といじめる者があります。

「他の子のような人間になりたい」の願いがおこりました。

すると「こうすれば人間になれる」と囁くキツネに騙されて、

お爺さんの町を離れます。

人間になるための冒険旅行では、いろいろな酷い目にあります。

しかし願いは叶わず、いのちからがお爺さんの家に帰りました。

「お爺さんただいま」と家に入りますが、中は静まり返っています。

お爺さんは居ませんでした。

「お爺さんどうした？」と尋ねると、こんな風でした。

お爺さんはあなたがいなくなつて、心配でたまりませんでした。

いろいろな所を探して歩いたのですよ。

海に出て、クジラに飲まれてしまいました。

ピノキオはしまったと思いました。

こんなに僕のことを想ってくれているお爺さんがあったのに…

ピノキオはクジラのお腹までお爺さんを迎えに行きます。

焚火をして、クジラのクシャミにのつて家に帰ります。

この時、魔法がかかり、ピノキオは本当の人間になりました。

（終わり）

さて問題です「ピノキオは人間になれた理由は何ですか？」

ディズニーは「良心の行動」と答えるでしょう。

私はその前の「お爺さんの想いへの気づき」を重視したいと思います。

「願われて在る」の気づきを大切に表現した物語だと思っています。



法名【私見?】

・戒名と法名

戒名…受戒した者が戒律を守る標として与えられる名

法名…仏弟子となり三宝に帰依することを誓い授かる名

真宗では法名を用い、戒名とは申しません。

持戒自力の修行ではなく、本願他力への帰依を宗とするからです。

・名で体を整える

法（＝ダルマ）は、法則・真理・存在を示す言葉です。

その人が求め・または表現した法を名に顕したいと思えます。

法というの難しいですが、人柄が偲べる名にしたいです。

亡くなられた方の法名を考えるとき、大変苦勞します。

苦心して編み出しても、気に入って貰えたのか確認できません。

ご自分の法名は自分で考えておいて貰えると助かります。

仏弟子として標榜する事柄を、法名として案出しておく、

人生はもっと意義深くなると思えます。

本山に願い出て、帰敬式を受けると尚良いです。

儀式をくぐると気合が変わります。

衷心よりお勧めし、何でもお手伝い致します。

・高田派の法名

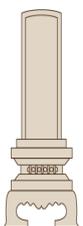
高田派の法名では、「道号+法名」で、四文字が選べます。

足りない方は、院号を付けると二文字増えます。

ご先祖の法名や、真宗の法義を参考にして考えてみて下さい。

後を導けるような、有難い法名ができると良いですね。

そして悔いのない人生を送りたいものです。



行事予定 平成二十五年

一月	一日 (火)	月例法話会・茶話会 (修正会)
二月	一日 (金)	月例法話会・茶話会
三月	一日 (金)	月例法話会・茶話会
	二十日 (水・祝)	春季彼岸・永代経法会 恒例の彼岸の法会です
四月	一日 (月)	月例法話会・茶話会
五月	一日 (水)	月例法話会・茶話会
六月	一日 (土)	月例法話会・茶話会
七月	一日 (月)	月例法話会・茶話会
八月	一日 (木)	月例法話会・茶話会
九月	一日 (日)	月例法話会・茶話会
	二十三日 (月・祝)	秋季彼岸・永代経法会 恒例の彼岸の法会です
十月	一日 (火)	月例法話会・茶話会
十一月	一日 (金)	月例法話会・茶話会
	三日 (日・祝)	高田本山団体参拝 本山の納骨堂法会に参拝します 市内・近郊の高田派寺院と共に バスを借りての日帰り旅行です
十二月	一日 (日)	月例法話会・茶話会
	七日 (土)	報恩講
	八日 (日)	真宗寺院で一番大切な法会です

○ 来年の月例法話会の法話は、『歎異抄』を題材にします
どなたでもご参加できます お誘い合わせてお参り下さい

お知らせ 総交代代

村田秀次様、小林稔様が総代職を受けて下さいました
寺のお近くにお住いの方々です
校区自治会でも活躍しておられます
人の集まる賑やかなお寺を目指して お力をお借り致します
宜しくお願い致します

後記

- 孤児院で育つジュディは、未知の男性から奨学金を受けることになり、大学へ進みます。
- ジュディは感謝の気持ちで近況報告を手紙に書きました。折りに触れて書き続ける毎に、親愛の情が深まっていきます。手紙は届きますが、本人と会うことは叶いません。
- 卒業後、その人の正体を驚きと共に知ることになるのですが…
- 「あしながおじさん」の物語です。
- おじさんとジュディの関係は、弥陀仏と私の関係に似ています。恩恵の中にあるけれど、その送り主を掴むことができない…
- 今戴いている恩恵に集中すべき所で、仏や浄土を議論することは空しいです。それは現実からの逃避だと思えます。
- 「念仏とは自己を発見することである」《金子大榮著・歎異抄》
発見されるのは「慶ぶべき所を慶べてない私」です。
- 「生かされて在る」この厳粛な事実から離れてはならない。それを恩恵として、いつもそこに帰り、お念仏申すこと。そんな生活が仏との親愛を深めていくのでしょうか。
- そう遠くないある日、お迎えがあつて、その正体を知ることになる筈です。それで良いと思いませんか？